瀧谷山報

令和2年4月発行

通巻 165号

発行所
瀧谷不動明王寺
〒584-0058
富田林市彼方(オチカタ)1762
電話 0721-34-0028
振替00930-5-17704
● 発行人　荒谷純光
● 編集人　荒谷純栄

● 五月二十八日 春季大祭 ご案内 ―― 2～3頁
● 観世音夏まつりのご案内 ―― 3頁
● 経典解説 十善戒 ―― 4頁
● 開創千二百年 記念事業経過報告 並ご奉讃お願い ―― 5頁
● 記念事業寄進者御芳名 ―― 6頁
● 記念事業寄進者御待遇表／鳥居 奉納のお願い ―― 7頁
● 節分会 開運福豆まきご報告 ―― 8頁
● お初穂米ご奉納 御礼／諸行事ご報告 ―― 9頁
● 今後の当山行事予定 ―― 10頁

学びの人生

春到来、山川草木はそれぞれに秘めたる生命力を開かんとその風情を見せている。この国が授かった大自然の美しさを実感する頃である。人々もまたこれに呼応するように日々の暮らしには変化が生まれる。

殊にこの時節を新たな学び舎で迎えた若者たちは多いことであろう。大阪府下ではおよそ百十六万人の若者が教育機関に在籍している（平成三十年、府下の公立私立幼稚園から高校までの総数）。幼少期から青年期にかけて体系的継続的に教育を受ける環境が整えられていることは、極めて重要であるとともに恵まれていることの証左でもある。だが豊かな教育を享受できない国や地域は現在も地球上にあり、それは人々が本来希求する普遍的な幸せを阻む一因ともなっている。

とにかく学ぶということを机上の勉強に終始することのみと考え、それ故に拒否反応や怠惰、放棄の姿勢に傾くこともあるだろう。しかし幼少から青年にわたる時期は、食物を摂取して体格体力が向上するように、多くの知恵を学び取ることで人格や人間力を高めていくことに通じるのである。こうした基礎的学びが可能なのは総じて若い時のみであり、それは若者のみに与えられた特権である。その学びの本義をわきまえていれば、その学びから得られる果実はどれもが有意義で最上なものとなる。

瀧谷山を開創された弘法大師は古来天才と称されるが、その大師として若き時には懸命に勉学された。その様子を「雪蛍(せっけい)を猶怠(なおおこた)るに拉(とりひし)ぎ縄錐(じょうすい)の勤(つと)めざることを怒(いか)る」（古人が雪明りや蛍の光で本を読んだ努力に比べ、自分はまだまだ怠けている、首に縄をかけ股に錐を刺して眠気を払った先人ほどにも勤めない自分を励ました）と『三教指帰(さんごうしいき)』の中で述懐されている。学ぶ者の背筋を伸ばしてくれる言葉にも聞こえるだろう。

もちろん学ぶことは若者に限らず、すべての人々の前に開かれた広大な海の如きものとの対峙であり、それゆえにこれを人生航路にも例えられる。

まさに人生は生き方の道場といえる。この生き方を学ぶための修行道場には幾つもの道場が必要となるが、その一つにお寺が含まれるはずで、歴史上多くの寺々がその役目を担った。ほどなく開創千二百年を迎えんとする瀧谷山もまた、老若男女の皆様にとって人生学びの道場にふさわしき寺院として確かなる歩みをと念ずるものである。

春の到来と共に衆生の幸せを切に願いて。

今後の当山行事予定

春季大祭（5月28日）

● 御本尊御開帳大護摩供
午前5時・10時・11時30分
午後1時30分・3時

● 大般若経転読付大護摩供
午前11時30分

● 柴燈大護摩供
午後1時頃 点火

観世音夏まつり（7月18日）

● 信徒安全祈願大護摩供
午前11時30分

● 施餓鬼廻向法要
午後 ＊改めてご案内いたします

地蔵盆（8月24日）

● 地蔵尊前にてお勤め
午後4時よりお勤め予定

※行事予定は4月1日時点での予定です。今後、新型コロナウィルスの感染拡大等により変更する場合があります。
詳しくは瀧谷山公式ホームページなどで随時ご案内いたしますので、ご確認くださいませ。

毎日の御護摩奉修時間

午前6時（28日は5時）
午前10時
午前11時30分
午後1時30分
午後3時

交通安全祈願

午前9時より午後4時まで
毎時0分／30分の30分毎
（毎月28日および1月31日～2月4日はお車の安全祈願はございません）

仏具磨きの日のお知らせ

4月25日　5月25日　6月25日　7月25日　8月25日
この日は仏具を磨く日ですから、昼の御護摩はございません。（朝6時のお勤めはいたしております）

※なお7月31日は本堂大掃除の為、昼の御護摩はございません。

編集後記

新型コロナウィルスの感染拡大が予断を許さない状況と言われています。瀧谷山の行事も今後変更になる場合があります。詳しくは公式ホームページなどで随時ご案内いたしますので、ご確認くださいませ。

瀧谷不動尊公式インスタグラムを開設しました。行事の写真、山内の季節の写真などを載せておりますのでぜひご覧ください。

編集人

TAKIDANIFUDOUSON

瀧谷山ホームページ　http://www.takidanifudouson.or.jp

五月二十八日　春季大祭
大般若経転読付大護摩供
柴燈大護摩供　厳修

お不動様のご縁日のなかでも、当山では特に五月二十八日を「春季大祭」として盛大にお勤めしております。当日は、午前十一時半から本堂にて、大般若経転読付大護摩供が勤められます。また、大峰山信徒会所属の修験者により、境内にて柴燈大護摩供が厳修され、ご信徒の皆様のお願い事をご祈念いたします。

柴燈大護摩供では、皆様にお願いを記していただいた数万本にのぼる護摩木が、修験者の手によって、天をも焦がす大きな炎に次々と投じられ、祈りを込めて焚き上げられます。

ぜひ当日はご参拝くださり、ご自身のお祈りを深めていただきますよう、ご案内申し上げます。

五月二十八日　春季大祭
- ●午前五時　御本尊御開帳大護摩供
- ●午前十一時頃　修験者大練供養出発
- ●午前十一時半　大般若経転読付大護摩供
- ●午後一時頃　柴燈大護摩供点火

※ご案内は四月一日時点でのものです。今後、新型コロナウィルスの感染拡大等により変更する場合があります。詳しくは瀧谷山公式ホームページなどで随時ご案内いたしますので、ご確認くださいませ。

柴燈大護摩供

大般若経転読法要

柴燈大護摩供　添え護摩木のご案内

五月二十八日の柴燈大護摩供では、皆様のお願い事が記された護摩木を火中に投じ、所願成就をご祈念いたします。

護摩木には、火の中におられるお不動様にお供えし、お願い事をお届けするという意味と、お不動様の智慧の火によって、私たちの心の汚れを焼きはらっていただくという二つの意味があるとされます。

柴燈大護摩供のご利益をいただかれますよう、本数にかかわらず、お願い事を護摩木に書いてお供えください。

なお、三十本以上お申し込みの方には、お不動様の身代わりとしてお祀りいただく御幣のお授けと、五月二十八日当日にお弁当のご接待がございます。合わせてお受けください。

柴燈大護摩供 添え護摩木
- ●御供料　一本 三百円
- ●受　付　五月二十八日当日まで

観世音夏まつり（施餓鬼廻向）のご案内

当山では、毎年七月十八日に、ご信徒の皆様に故人を偲び、お祈りいただく法要として「観世音夏まつり」をお勤めしております。

当日は、午後より施餓鬼廻向法要をお勤めし、ご廻向の申し込みをいただいたご戒名を一体一体読み上げて、皆様のご先祖様やご縁故の方々に廻向申し上げます。

また、建設中の客殿完成を見込み、今年より客殿内に会場を設けて清興・福引き等の催しをご用意し、法要形式もいっそう充実した行事とする予定です。それとともに、今年より廻向料を一口五体五千円からへと改訂させていただきます。誠に勝手ながら、ご了承いただきたく存じます。

お申し込みのご案内は、六月中旬頃、以前お申し込みいただいた方を優先してお送りさせていただきますが、ご案内をお持ちでない方もお申し込みいただけますので、お気軽にお問い合わせください。

※今後の新型コロナウィルスの感染拡大の状況により、予定を変更する場合があります。あらかじめご了承くださいませ。

七月十八日　観世音夏まつり
- ●廻向料　一口五体 五千円から
- ●受　付　六月頃 改めてお届け（以前お申し込みの方を優先してお届けいたします）

●ご廻向とは……

私たちが積んだ功徳をご先祖様に廻し向けることです。

亡くなった方はこの世で功徳を積むことが出来ません。そこで、お坊さんにお経をあげてもらったり、仏様にさまざまな供物をお供えしたり、毎日に感謝して手を合わせる心を持ち、善い行いをしたりして、それらの功徳をご先祖様に廻し向け、福徳を受けてもらうことを廻向と申します。

経典解説

十善戒

弟子某甲
尽未来際
不殺生　不偸盗
不邪婬　不妄語
不綺語　不悪口
不両舌　不慳貪
不瞋恚　不邪見

今回は、最後の「意」に関する三つの徳目について。これら三つの徳目は、「貪」（むさぼり）「瞋」（怒り）「痴」（愚かさ）と対応しています。初回（山報158号）のテーマ「懺悔文」では、「我昔より造る所の諸々の悪業は　皆無始の貪瞋痴に由る」とあったように、これらは始まりの無いほどの昔から、私たちの心にまとわりつき、無数の悪しき行いの原因となってきたもの。今回は、これら三つの煩悩を心から取り除くことがテーマとなります。

引き続き、十善戒に依拠した理想的な実践のあり方を具体的な内容を、『十地経』から見ていくことにします。同経は、「不瞋恚」の徳目を体得した菩薩の姿を、次のように説いています。

さらにつぎに、〔かの菩薩は〕いらいらした心がない。というのは、あらゆる衆生に慈しみの心があり、恵みを与えようとの心があり、仁恕の心があり、安らぎを与えようとの心があり、愛情のある心があり、あらゆる衆生をやさしくみちびく心があり、あらゆる衆生によかれかしとの憐愍の心があるのである。かの菩薩は、およそ憤怒の心、怨恨の心、すさんだ心、垢れた心、いらいらした心、欲情の心、激情の心などがやんでいる。そして、恵みぶかさのある心、慈しみぶかさのある心、あらゆる衆生に恵みと安らぎをもたらそうと綿密に配慮した心をおこしているのである。

（荒牧典俊『十地経』大乗仏典八、中央公論社、一九七四年、七四頁。〔〕内は筆者による）

ここには、修行が進み、もはや怒りの心を起こさなくなった菩薩が登場します。この菩薩は、ただ起こった怒りを我慢するという段階ではなく、修行の結果、心身が浄化され、怒りの心がもう起こらなくなった段階にあるものとして描かれます。前回・前々回と見てきたように、「殺生をしない」ことで「慈しみぶかい心が生じ」、「嘘をつかない」ことで「そのときに適切な言葉を語る」ようになる。そのように、身体・言葉の行いと心のあり方はつながっており、修行を重ねることで一体のものとして変化していくもので、今回登場する菩薩に怒りの心が起こらなくなったのも、そのような長い修行を経てのことと見るべきでしょう。

加えて、この菩薩には怒りの心がやみ、他者に喜びを与えようという心が起こるという点も、注目するべきでしょう。そのような利他の心は、怒りを捨てる修行の結果生じるだけでなく、私たちの心にもあり、時に修行の原動力になり、時に私たちをよき方向に導いてくれるはずです。

もっとも、あらゆる生き物の安らぎを願う菩薩と怒りに迷う私たちの間には、大きな隔たりがあることも事実です。けれども私たちとて、身近な人々の幸せを願い、仏様に手を合わせることは出来るし、その時ばかりは怒りを離れた安らかな心をいただけるものでしょう。自らの心の迷いを捨てることが、自他の命を生かしていくことにつながれば、それが理想的な修行のあり方であるに違いありません。

以上、これまで四回、十善戒について見てきました。次回は、また新たな戒を授かります。

『瀧谷山礼拝法則』の解説。「十善戒」の四回目。

これまで、十善戒を構成する身体（身）・言葉（語）・心（意）の三つの側面を、それぞれ『十地経』という経典の記述を取り上げて説明しました。改めておさらいしておきます。

身…不殺生　不偸盗　不邪婬
語…不妄語　不綺語　不悪口
　　不両舌
意…不慳貪　不瞋恚　不邪見

総事業費十二億円 客殿棟・寺務棟新築

令和三年 開創一千二百年 記念事業経過報告 並ご奉讃お願い

当山は平安時代　弘仁十二年（西暦八百二十一年）弘法大師の開基と伝えられ、令和三年は開創一千二百年に正当いたします。

この勝縁に際し、令和三年五月に開創一千二百年祝祷法要を奉修する予定であります。またこの法要の記念事業として、寺務棟ならびに客殿棟の新築工事を実施しております。

この事業は、災害対策に限界のあった旧来の木造建築を更新する必要から、総事業費十二億円、九百坪近くの新築工事となります。当山にとりましては乾坤一擲の大事業ですが、開創一千二百年という節目に臨み、新たな時代を迎える当山にとってまことに相応しい事業であると考え、この発願をした次第であります。

足掛け三年におよぶ工事も大詰めを迎え、第二期工事の客殿棟の完成も間近に迫りました。全体としては今年五月ごろの完工を見込んでおり、順次使用を開始いたしますが、正式なご披露は令和三年の祝祷法要にあわせて実施する予定です。

当事業には、かねてより多くの方々からご奉讃を賜り、厚く御礼申し上げます。ご奉讃いただいた方には、別項に掲載の規定によってご芳名を顕彰し、末永く寺録に留めて祈願いたします。御信徒の皆様におかれましては、お不動様のご威徳を新たな時代に伝えていくため、今後ともさらなるご信援を賜りたく、謹んでお願い申し上げます。

瀧谷不動明王寺

建設中の客殿棟

完成予想図

開創一千二百年記念事業寄進者御芳名（敬称略・順不同）

富田林市　明石　將孝
兵庫県　榊　克育
兵庫県　細川　義登
埼玉県　總願寺　山口　真司
門真市　谷口　登美江
八尾市　小倉　美穂
大阪市　成山　晟
富田林市　祇園　キヌヱ
松原市　中川　迪子
東京都　南藏院　花木　義明
和歌山県　東谷　好子
富田林市　藤原　輝美
和歌山県　寺田　滋紀
富田林市　合同会社E・Gカンパニー
河内長野市　土井　伸介
広島県　久村　守
吹田市　阿部　美和
大阪市　大山　良二
岸和田市　田中　米三
堺市　上田　義仁
富田林市　森井　孝司
藤井寺市　林　榮児
藤井寺市　金森　智子
藤井寺市　山田　文子
藤井寺市　山田　泰江
藤井寺市　金森　恵子
堺市　川北　榮一
泉大津市　富永　和樹
富田林市　山本　康子
和泉市　木下　英雄
愛知県　松島　穣
堺市　前田　佳範
大阪市　川野　佐知子
兵庫県　池田　美千代
富田林市　岡本　圭史
富田林市　山本　佳花
富田林市　瀧川　美則
兵庫県　高橋　力夫
堺市　與戸　巧
東大阪市　藤井　侃
和歌山県　根来寺
大阪狭山市　吉田　多津子
兵庫県　入江　チヱ
宮城県　齋藤　泰樹
奈良県　松村　晃治
奈良県　川嵜　佳津子
岸和田市　山野　賀世子
兵庫県　奥村　友見
富田林市　山本　愛佳
和歌山県　田村　寛
和歌山県　川嶋　弥寸夫
羽曳野市　井口　宗久
大阪狭山市　山下　美智代
奈良県　東谷　公二
八尾市　蟻柴　義明
泉大津市　横田　光央
埼玉県　観音寺　御嶽　隆英
大阪市　楠木　昌子
奈良県　坂田　明紀
富田林市　山本　誠一
大阪市　黒川　佳洋子
堺市　宮野　博行
富田林市　黒田　喜信
富田林市　黒田　晃民
堺市　敷根　照美
富田林市　柴田　雅裕
河内長野市　中川　かおり
羽曳野市　中西　裕之
堺市　山本歯科医院
山本　憲二
堺市　山本　和子
奈良県　前田　栄子
大阪市　中谷　勉
富田林市　簑城　雅寿
松原市　河瀬　多代子
松原市　吉田　芙美
堺市　花川　忠信
大阪市　(有)松葉すし
大阪狭山市　吉田　六男
豊中市　阿藤　則子
豊中市　阿藤　繁
堺市　阪口　顕一
羽曳野市　芝田　安弘
羽曳野市　廣田　博俊
松原市　谷口　進一
岸和田市　仲氏　城子
南河内郡　中尾　貞子
堺市　宮本　千恵美
堺市　大谷　征夫
和歌山県　岸谷　好子
柏原市　松村　芳美
泉佐野市　重里　幸作
富田林市　宮武　信二
富田林市　東　幹雄
和歌山県　北野　修子
堺市　中野　美智代
大阪市　山口　武廣
大阪市　渡月合同会社
富田林市　和泉川　律子
富田林市　大東食品機械(株)
大阪市　大橋　正治
豊中市　三前　武
和歌山県　高橋　恭子
富田林市　吉田　義信
泉大津市　高寺　良昭
和泉市　山本　恭弘
堺市　西川　薫
堺市　薮田　雄司
大阪市　梶本　芳司
大阪市　網元　美智子
岸和田市　吉﨑　ゆみ子
南河内郡　木田　稔
富田林市　篠原　博信
堺市　中平　進一
富田林市　石橋　剛
東大阪市　今村　保博

令和二年二月以降に御寄進頂いた方の御芳名は、次号以降に掲載いたします。

記念事業寄進者御待遇表

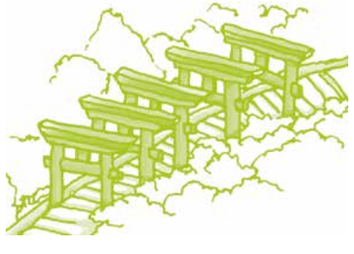
一万円以上	三万円以上	五万円以上	十万円以上	三十万円以上	五十万円以上	百万円以上
山報に御芳名を掲載いたします。	同右	同右	同右	同右	同右	同右
	御芳名簿に記入して客殿仏間に納め、永く家門繁栄を祈念いたします。	同右	同右	同右	同右	同右
		同右	同右	同右	同右	同右
御芳名を記入した板札を境内の建札台に掲げ、広く顕彰いたします。						
受付時に記念品を進呈し、落慶時にご案内をいたします。	同右	落慶法要にご案内して記念品を進呈いたします。	同右	同右	同右	同右

鳥居 奉納のお願い

この度、多宝塔参道ならびに参道脇の永楽大明神社の鳥居が古くなり、作り替えることとなりました。つきましては左記の通りお施主様をお募りいたします。

皆様には何卒ご協力をお願いいたします。

◆奉納料
参道鳥居　50万円
永楽大明神社鳥居　20万円
◆募集数　各1基
◆問い合わせ　寺務所



節分会 開運福豆まき ご報告

去る二月三日、恒例の開運福豆まき式が執り行われました。今年も三回の豆まき式が行われ、延べ約九十名の福男・福女の方々が、落語家の林家染二師匠とともに豆まきの舞台に上がられました。

冒頭、染二師匠から、数年前当山の豆まき式にご出仕いただいた関取・徳勝龍関の大相撲初場所での優勝が報告されると、会場は一気に沸き、大変な盛り上がりに。舞台に押し寄せるお参りの方々に向かって、福男・福女の皆様も力一杯豆まきをされていました。豆をまく皆様の掛け声と、豆の行く先から沸き起こる歓声とがこだまし、お不動様の大きなご利益を分かち合う晴れやかな式となりました。

客殿工事中の為、染二師匠をはじめ出仕者の皆様には、多大なご不便をおかけしましたが、皆様のお力添えのもと無事に勤め上げることが出来ました。ここに感謝申し上げ、ご報告といたします。

豆まきの様子

●福豆まき式に参加された福男福女の皆様（五十音順）

一回目

乾 醇子 殿
乾 倫之右 殿
印南 和行 殿
植田 啓二 殿
植田 美花 殿
尾崎 和子 殿
荻野 重人 殿
冠野 孝明 殿
北野 登己郎 殿
小森 靖司 殿
澤田 定至人 殿
杉原 亨一 殿
土井 啓司 殿
道幸 美行 殿
中島 教雄 殿
西尾 彰芳 殿
藤田 保子 殿
藤田 幸範 殿
藤本 順三 殿
藤本 智久 殿
藤本 亮 殿
藤本 晴也 殿
松井 利夫 殿
松本 四郎 殿
水上 淳 殿
水上 宏 殿
水上 凌 殿
安田 昌男 殿
山原 璃予 殿

二回目

稲光 瑩子 殿
植田 利一 殿
上田 佳美 殿
大野 健一郎 殿
岡崎 香 殿
岡田 昌弘 殿
小川 敦史 殿
金岡 勝治 殿
栢木 睦子 殿
北野 祐基 殿
北野 銘一 殿
小嶋 敬子 殿
水道 貴之 殿
水道 未悠 殿
高橋 勝彦 殿
玉木 礼子 殿
土井 健 殿
新田 節子 殿
狭間 真里 殿
福田 久実 殿
古川 武志 殿
松本 久仁子 殿
松本 有司 殿
道籏 智世子 殿
道籏 冨美子 殿
道籏 衞 殿
安井 勝己 殿
山中 和彦 殿
吉田 義信 殿

三回目

生田 亮司 殿
生田 樹代能 殿
管家 基夫 殿
小谷 憲作 殿
小谷 忠美 殿
小林 竜也 殿
阪本 茂臣 殿
芝池 弘督 殿
芝池 周美枝 殿
島原 隆夫 殿
角岡 瑠弓 殿
瀬井 健二 殿
寺田 育子 殿
中野 茂 殿
筈谷 友蔵 殿
筈谷 芙美 殿
福本 二郎 殿
福本 美知子 殿
前田 艶子 殿
前田 真里 殿
牧村 説子 殿
牧村 裕一郎 殿
水谷 明憲 殿
矢倉 富子 殿
矢倉 鈴奈 殿
吉川 元庸 殿
吉崎 美知子 殿
吉崎 睦美 殿
アメリア リトゥ 殿

お初穂米ご奉納 御礼

毎年秋に、お初穂米のお供えをお願いしております。今回も大勢の皆様から沢山のお供えを頂戴いたしました。ここに厚くお礼申し上げます。

お初穂米は二月中旬まで不動明王様のご宝前にお供えし、ご信徒皆様の家運長久、家内安全、身体健全等を祈念いたしました。

お供えされたお初穂米

如意宝珠のお授け ご報告

二月三日、寺務棟内の特設道場にて、如意宝珠のお授けが行われました。如意宝珠は、意のままに願いをかなえる力を持つとされる宝物で、当山では毎年節分の日にのみ、皆様にお授けしております。

当日は、たくさんの方がお参りになり、お授けを受けられました。

節分 星まつり ご報告

二月三日午後五時より、節分星まつりのお勤めが厳修されました。お申し込みいただいたお札を本堂にお供えし、皆様の除災招福を祈念してお勤めいたしました。法要後には、堂内にて豆まきが行われました。

花まつり（灌仏会）ご報告

瀧谷山では毎年、三月二十八日から四月八日の灌仏会の日まで、花御堂を設けてお釈迦様の誕生日をお祝いし、ご参拝の皆様に甘茶を接待申し上げていますが、今年は新型コロナウィルスの流行により甘茶のお接待は中止とし、花御堂の設置も四月八日のみといたしました。

身代わりどじょう お世話のお礼

当山滝行場にて、身代わりどじょうの小屋を長年にわたってお世話いただきました吉田夫妻が、このたびご高齢のため引退されました。

当山に伝わる身代わりどじょうの信仰とは、滝谷の川にどじょうを放してお願いすると、お不動様がどじょうの姿となって身代わりとなり、目の病気を治してくれるというもので、近年では眼病平癒に限らず色々なお願いでも、沢山の方がどじょうを放してご祈願されています。

吉田夫妻は、お参りの方がいつでもどじょうの放生ができるよう、長年にわたりお世話いただきました。紙面を借りてここに御礼申し上げます。

身代わりどじょうの放生の様子